



② 知っていますか?『ゲートキーパー』

2月13日(土)、大崎中学校の1、2年生を対象に心の健康教育授業が行われました。

講師は、桜ヶ丘病院(鹿屋市)の臨床心理士である安藤充止さんが務め、思春期の心理の特徴などについて分かりやすく説明されました。

ゲートキーパーとは、『悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人のこと』で、生徒らは命の大切さについて学びました。



③ 世界に一つだけの宝物♪

2月13日(土)、野方小学校の1年生と2年生が学校応援団に登録している田下幸次さん(南中組)と佐土原正治さん(松ヶ鼻)の指導を受けながら、『星形』『ハート形』『さかな形』の3種類のきれいな貝細工を作り上げました。

児童らは、やすりを使って貝を根気強く磨いたりしながら、全員がきれいに仕上げることができ、大喜びで自宅に持ち帰りました。



① 認知症を正しく理解しよう!

1月14日(木)から2月26日(金)の期間中、役場職員を対象とした『認知症サポーター養成講座』が町保健センターで開催され、キャラバン・メイト連絡会のメンバーが講師を務めました。

認知症とは、『いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりしたためにさまざまな障害が起こり、生活するうえで支障が出ている状態』を指します。厚生労働省は、団塊の世代が75歳以上になる2025年に認知症の人は約700万人に達すると推計しています。

講座では、認知症と物忘れの違いや認知症の症状、予防法など実例を交えながら話し、「自分やその家族が認知症になっても、住み慣れた地域で自分らしく笑顔で暮らすためにできることを考えてみましょう。」と訴えました。

受講後、認知症の理解者の証である『オレンジリング』が配布されました。

